

保護者の皆様
地域の皆様

練馬区立大泉第四小学校
校長 梅津 靖子

令和4年度練馬区立大泉第四小学校 学校評価の報告

早春の候、保護者、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

1月には学校評価に係るアンケートにご協力ありがとうございました。この度、令和4年度の学校評価につきまして、学校関係者評価委員会を開催し、評価結果の取りまとめを行いましたのでご報告いたします。

1 学校関係者評価委員会について

(1) 開催方法 紙面開催

(2) 参加者（学校関係者評価委員会委員）

加藤 陽子（進幼稚園理事長）	加藤 修一（特別養護施設光陽苑理事長）
内堀 高子（大泉西地区委員会会長）	加藤 忠（避難拠点運営連絡会会長）
炭谷 拓美（主任児童委員）	江口由美子（学校応援団団長）
鈴木 宏美（学校応援団）	内堀 雅巳（青少年委員）
石井 康幸（元・現PTA会長）	加藤 直之（現PTA会長 途中退任）
梅津 靖子（学校長）	山口 真（副校長）

(3) 評価の流れ

- ① 学校が、令和4年度練馬区立大泉第四小学校経営計画に基づき教員が自ら行った評価、保護者評価、児童アンケートの結果を考察し、改善策を策定する。
- ② 結果と考察、改善策について、学校関係者評価委員に郵送し、評価したものを返送していただく。

2 評価結果の取りまとめについて

- (1) 学校関係者評価委員会での検討を経た評価結果の取りまとめを公表する。
- (2) 練馬区教育委員会に報告する。
- (3) 次年度の本校教育課程編成に活かす。

3 評価者等について

(1) 教員

- ① 実施時期 令和4年7月・令和5年1月
- ② 実施人数 22人（全学級担任・専科・養護教諭）
- ③ 方法 質問紙法

(2) 保護者

- ① 実施時期 令和5年1月実施
- ② 回答数 274人
- ③ 方法 質問紙法

(3) 児童

- ① 実施時期 令和5年1月
- ② 実施人数 546人（1～6年生児童）
- ③ 方法 質問紙法

4 評価項目について

評価は4段階である。

- (1) 教員 4段階の評価基準に当てはめた回答
- (2) 保護者 4＝とてもそう思う 3＝そう思う 2＝あまり思わない 1＝そう思わない
- (3) 児童 4＝とても 3＝だいたい 2＝あまり 1＝ぜんぜん

5 評価結果の取りまとめ

評価者	評価項目 1	1月
教員	相手を意識して、「話を正しく聞いて理解する」ことができるように、学年・学級の実態に応じて取組を行う。	3.1
保護者	児童の話の聞き方がよくなるよう指導しながら、授業に取り組んでいる。	3.4
児童	先生の話をしっかり聞けるよう分かりやすく話してくれる。	3.4
考察	学校全体として、授業態度が落ち着き、よい話の聞き方が子供たちの生活に定着しているように感じる。	
改善策	教員からの話を聞く姿勢は育ってきている。児童間での話合いの場を増やし、聞き合い・学び合いの姿勢を継続して指導していく。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も全体的に落ち着いている。 ・子供たちが真剣に教員の方を向いて聞いている。 ・数年の取り組みに渡る繰り返しの指導が成果として出ている。 ・集中できる環境づくりとともに、子どもだけでなく、教員側も子供の話に耳を傾ける姿勢を大切に指導していきたい。 	

評価者	評価項目 2	1月
教員	「書くこと・話し合うこと・伝え合うこと」の活動を、発達段階や児童の実態に合わせて工夫して取り入れる。	3.2
保護者	授業の中に、自分の考えを発表したり、書いたりする時間を設け、指導している。	3.5
児童	授業の中で自分の考えや感想を発表したり、書いたりする時間を作ってくれている。	3.2
考察	コロナ禍で全体やグループでの発表する機会が限られてはいるが、授業中でのグループ学習、振り返りの時間を意図的に設けた結果と考える。	
改善策	コロナ禍でも児童間での話合い活動を充実させ、発表や振り返りの時間などに ICT を工夫して活用していく。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で「考える力」を出させる指導の結果に結びついている。 ・自分の考えを発言することは大変なことなので、これからもくり返し機会を設けて指導していってほしい。 ・思いやりのある子供たちなので、子供たち間で相手の考えを尊重できる心を育てていってほしい。 ・書くことが減ってきているので、効果的な指導を期待する。 	

評価者	評価項目 3	1月
教員	主体的・対話的で深い学びを保証するための ICT の活用を積極的に進める。	3.6
保護者	大型提示装置やタブレットなどの ICT 機器を有効に活用して授業を行うようにしている。	3.5
児童	教室の大型提示装置やタブレットをよく使った、分かりやすい授業を行ってくれている。	3.7
考察	校内研究で ICT の効果的な活用について研究を深め、日々の ICT 機器の活用を推進した結果、日常的に活用することができた。	
改善策	今年度蓄積した成果を、次年度に継続する。児童も活用に慣れてきているので、校内研究での成果を生かしながら日々充実した実践を行っていく。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用は今の時代に合っており、子供にとって親しみやすいものであり、楽しそうに取り組んでいる。 ・子供も教員も ICT 機器を日常的に上手に活用していることが分かる。 ・教員が自信をもって教えている姿は子供に伝わる。本校の ICT を活用した教育はまさにそうになっている。 	

評価者	評価項目 4	1月
教員	挨拶運動などの取組や日常的な取組などを通して、返事をする・すすんで挨拶をする指導を徹底する。	3
保護者	児童がすすんで挨拶をしたり、名前を呼ばれたら返事をしたりするよう指導している。	3.5
児童	すすんで元気な挨拶や返事ができるよう、声をかけてくれている。	3.4
考察	高学年のあいさつ運動や教員から挨拶することにより、子供たちの意識は高まった。声の大きさや目線など、改善の余地がある。	
改善策	挨拶は、生活の基本であるので指導を継続していく。今後は、日常の挨拶や地域の方への挨拶を積極的にできるように指導する。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年が落ち着いて挨拶等ができるので、学校全体で声が出ているように感じる。 ・基本の挨拶が身に付いており、校外でも素晴らしい。 ・これからは「すすんであいさつ」「ありがとう。」「ごめんなさい。」「さようなら。」などを身に付くとなおよい。 ・挨拶は人との関係をよりよくするものなので、まずは大人からお手本となるよい挨拶を心がけたい。 	

評価者	評価項目 5	1月
教員	いじめの未然防止のために、計画的な指導・活動に取り組むとともに、いじめの早期発見に向け、児童理解を深めたり、毎月学校独自の「いじめアンケート」を実施して情報を学校全体で共有したりして、組織的に解決を図る。	3.6
保護者	児童がいじめのない学級で安心して学校生活を送れるよう見守っている。	3.5
児童	困ったことや心配なことがあると、声をかけてくれたり相談にのってくれたりする。	3.4
考察	毎月アンケートを実施することで、いじめ防止が学校・家庭でも意識が維持でき、良好な評価が出ていると考える。	
改善策	いじめ検知はないが、引き続き日常的に一人一人の子供をよく見て、少しでもいつもと様子が違う子供には、積極的に声をかけて、問題が小さいうちに解決していく。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によっては、いじめアンケートが年2回の実施もあるようだが、本校の毎月実施がいじめ防止に効果的が出ている。 ・いじめの問題は、学校だけの対応で行うものではない。家庭や地域と連携して取り組むことが大切である。 ・いじめの問題があった場合に、まず子供間の対応を第一にした方がよい。親が入ることで、複雑になるケースがあるのではないか。 	

評価者	評価項目 6	1月
教員	中休みは全校児童を校庭に出し、体育の授業では様々な運動を経験させる。	3.5
保護者	児童が、すすんで体育の時間や休み時間に、運動に親しむよう指導している。	3.5
児童	体育の時間や休み時間にたくさん体を動かすように、声をかけてくれる。	3.6
考察	コロナ禍で外遊びや体育の授業に制約があったが、活動を工夫することである程度の充実感は得られたと考える。	
改善策	コロナ禍前後の内容を比較し、それぞれの効果で有効であったものから検討し、今後も柔軟に学校行事を行っていく。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がコロナ禍でも、工夫して運動に取り組ませていることが素晴らしい。 ・中休みや体育の授業以外でも校庭開放などに取り組んでいることが有り難い。 ・子供のうちから、様々な運動を経験させ、体力を付けさせることは大人になってからも大きくつながる。 ・運動でストレス発散、コミュニケーション、いじめ対策につながるので日頃から大切にしたい。 ・小学生のうちから体力を付けることで、大人になっても体力が保てるので、今後も大切に指導してもらいたい。 ・運動が苦手な子もいると思うので、昼休みの外遊びが選択できるのは、居場所作りとしてよい。 	

評価者	評価項目 7	1 月
教員	学校行事や集会・きょうだいグループ活動や学年・学級での活動を通して、児童一人一人がめあてと役割をもって意欲的に活動に参加できるように指導する。	3.5
保護者	児童が、学校行事・集会・きょうだいグループなどの活動に、意欲的に取り組めるよう、適切に指導している。	3.5
児童	学校行事・集会・きょうだいグループを楽しんで取り組めるようにしてくれる。	3.6
考察	学校行事もコロナ禍で制限があったが、柔軟に日程や内容を変更して行っていくことで保護者や児童からの充実感は得られたと考える。	
改善策	コロナ禍前後の内容を比較し、それぞれの効果で有効であったものから検討し、今後も柔軟に学校行事を行っていく。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年が低学年をみる工夫が見られる。 ・いろいろな行事が制限されている中、教員・保護者・児童が少しでも楽しく行っているところが素晴らしい。 ・感染が収まっている間に、柔軟に対応して行事が行えてよかった。今後も変化していくと思われるが、対応をお願いしたい。 	

評価者	評価項目 8	1 月
教員	全校朝会や児童集会が、開始予定時刻に始めることができる指導を工夫する。	3.4
保護者	児童が朝会や集会、授業の開始時刻を守って生活できるように指導している。	3.6
児童	朝会や集会、授業の開始時刻を守って生活できるように声をかけてくれる。	3.6
考察	学校全体で時間を守ることを日々指導することで、意識が保持でき、学校・家庭でも高い評価につながったと考える。	
改善策	時間を守ることは集団生活の基本であるので指導を継続していく。コロナ禍で集団で活動する機会が減っているため、戻った際にも保持できるように指導を続ける。	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は授業の開始時刻等をしっかりと守っている。 ・今後も積極的に学校、家庭を含め指導していきたい。 ・コロナが収まっても守れるようにご指導を願いたい。 	

自由記述

～貴重なご意見をありがとうございました～

継続・発展を望むご意見

教職員の対応	<ul style="list-style-type: none">・帰ってくると学校での出来事を話してくれていて、毎回学校へ行くのが楽しいと言っていますので、とても良い雰囲気クラスなのだと感じています。・子供が友人関係で悩んでいたら、相談した翌日に担任の先生がすぐに話し合いを設けて下さり、本当に心強かったです。親子でどう解決をしていいのかわからなかったもので、感謝でいっぱいです。・兄妹からも大四小の先生は素晴らしい先生、スタッフさんばかりだと聞きます。いつも温かいご指導に感謝しております。・特に二学期以降に、立て続けに大きな行事が続きましたが、どれもすてきな仕上がりで感動しました。先生方には感謝しております。 学校公開でタブレットの授業を見学しましたが、子どもたちがしっかり使いこなしていて感心しました。長期で休んでもタブレットでの連絡でフォローしていただくこともあり助かっています。
コロナ対応	<ul style="list-style-type: none">・コロナ渦の中でも、先生方ができる事を一生懸命考えてくれて、運動会や学芸会、移動教室での思い出もたくさん作る事ができ、とても感謝しています。・小さい兄弟がいるので保護者会等をオンラインにしているのはとても助かっている。今後も継続していただけるとありがたい。

日頃より大泉第四小学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。また、今回のアンケートでは教職員への賞賛や励ましの言葉も多数いただきました。

今年度もコロナ禍の中、学校として子供の安全を第一に考えながら、様々な対応をまいりました。ご家庭の協力をお願いすることも多く、ご迷惑をおかけしました。そんな中でも、毎日たくさんの子供たちが笑顔で学校生活を送れたことは、教職員としても大きな励みとなりました。

これからも、日々子供たちを大切に、授業改善に励みながら、教職員と子供の確かな信頼関係を築いてまいります。

改善を望むご意見・ご質問

コロナ対応	<ul style="list-style-type: none">・来年度はコロナ禍での制限がなくなり、もっと自由に学校生活を送れるようにしてほしいと思います。給食の黙食廃止など、いろんな経験の機会を作ってもらえたら嬉しいです。・コロナで制限されていた学校生活が、少しずつ緩和されて、イベントなども復帰し、子供たちの心に残る思い出や活動が増える事を期待したいです。・コロナ禍ではありますが来年度は午前だけでもいいので運動会に戻してほしいです。子供に運動会を体験させてあげたいです。
学校からの回答	来年度より、新型コロナウイルス対策が緩和されていくと思われまます。区の新しい方針に従い、子供たちの安全を第一としながらも、充実した学校生活を送れるようにしていきます。コロナ禍の前、後のそれぞれのメリット、デメリットを比較し、総合的に判断し、進めていきます。
学習について	<ul style="list-style-type: none">・学級閉鎖などで休んだ時にクラスの子たちと一緒に授業を受けられる体制を整えていただきました。・2学期のタブレットの漢字の宿題は、指で字を書く事が難しかったようで、何度もやり直し、やる気をなくす場面もありました。タッチペンで字を書くタブレットの宿題であればいいなと感じました。・タブレットを入れたときのランドセルの重さがやはり気になるので、低学年は2日連続で使用し、1日は学校に置いていくなど、負担を軽減できないか検討していただきたいです。
学校からの回答	練馬区の教育方針では、ICTの活用、オンライン学習などの充実も大切にされています。これからもよりよい形を追求し続け、実践していきます。学習形態としても、ノート等への記述やICTの活用を使い分け、書く、話す・聞く活動の充実を図っていきます。タブレットの活用や準備についても、発達段階にあった方法を検討し、行っていきたいと思ひます。

この他にも、教職員の対応や、お子さんの学習や生活に対するご心配やご要望などについて、ご意見をいただきました。全てのご意見に関して、担任もしくは担当者と共に、今後の対応について検討いたしました。来年度の教育活動に生かしてまいります。